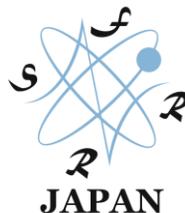


SFRR Japan NEWSLETTER

January 1, 2015



Top News

2015年 羊年 新理事長就任



年頭のご挨拶

新理事長 豊國 伸哉

(名古屋大学医学系研究科 教授)



新年を迎え、会員のみなさまにおかれましては、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。今年より2年間に渡り、理事長を務めさせていただくことになりました。吉川敏一学長、小澤俊彦教授のお二人の理事長が育ててこられた本学会を発展させ、学際性をさらに高め社会に貢献できる存在にしていこう努力する所存ですので、会員のみなさまの御協力、御支援を賜りたく、心よりお願い申し上げます。

昨年3月には、会員のみなさまの強力なサポートのおかげで、内藤裕二議長と二人でSFRR2014Kyotoを成功裏に終了することができました。ここでは多くの国内外の研究者同士の出会いがあり、新たな研究の方向性が生まれたのではないかと考えております。

私たちは酸素なしで生きることはいわゆる酸化ストレスは生物学・農学・薬学・医学のほぼ全領域に関連します。酸化ストレス研究の内容は生化学会、分子生物学会、癌学会、病理学会、薬学会、農芸化学会、内科学会、外科学会などの、本学会より大きな学会でも論じられておりますし、特定の酵素、金属や化学反応に関する、小さな学会や研究会でも論じられています。私からのお願いは、酸化ストレス研究を他の学会でも多数発表して宣伝に努めていただきたいと思いますし、また、他の学会の新しい内容を酸化ストレス学会にも是非持ち帰って発表していただきたいと思っております。このあたりは最近の年次総会では徐々に実践されつつあることかと思っております。そして、この学会を酸化ストレス研究のメッカならびに増城(るつぼ)にさせていただきたいと願っております。

幸いなことに、学際的には、関連新領域として「酸素を基軸とする生命の新たな統合的理解H26-30」と「プラズマ医療科学の創成H24-28」が走っており、多くの学会員が参画しています。また、学会誌としてJournal of Clinical Biochemistry and NutritionとSFRR Asiaの学会誌Free Radical Researchをデータ公表の基盤として保有するメリットは大きいと思っております。投稿のみならず、査読にも是非積極的に御参加いただき、editorial boardに一人でも多くの学会員が入るように努めていただきたいと思います。本学会がさらに発展していくためには、若手研究者の研究力ならびに英語力が重要になっていくと考えます。今年も、酸化ストレス関連学会がニュージランド開催のものも含め多数あります。会員の先生方には是非海外の学会でも発表を重ね、自らの英語力を存分に磨いていただきたいと思います。末筆になりましたが、本年も会員各位におかれましては、健康と安全に十分に留意され、ますます御活躍になることを祈念しております。

New! *** 役員新任報告 ***

2014年度役員会にて、新しい役員が下記の通り選出されました。

新理事長: 豊國伸哉
新名誉会員: 小澤俊彦
新功労会員: 大東肇
新監事: 小澤俊彦 (二木先生後任)
新理事: 平山 曉



新理事ならびに新評議員の推薦については、2013年施行の理事・評議員内規に則り今後も広く募って行く。(理事推薦は、現行理事2名以上連名による、また、評議員は、現行理事1名以上もしくは評議員2名以上の連名による推薦状が必要。総会の1ヶ月前までに所定の書類を事務局へ提出。詳細は、推薦内規参照のこと。)

なお、現行の役員についても、連続して3回欠席した場合は再任を認めない事となっている為、各役員については、留意して下さい。過去すでに2年連続で欠席している理事・評議員については、特にご注意ください。過去の出席歴が不明な場合は、事務局まで、お問い合わせ下さい。

◇◇◇ 年次学術集会案内 ◇◇◇

第68回日本酸化ストレス学会学術集会

日時: 2015(平成27)年6月11日(木)~12日(金)

会場: かごしま県民交流センター

〒892-0816 鹿児島県鹿児島市山下町14-50

<http://www.kagoshima-pac.jp/jp/center/index.html>

会長: 馬嶋 秀行

(鹿児島大学大学院医歯学総合研究科・教授)



開催のご挨拶

この度、鹿児島市・かごしま県民交流センターにおきまして、平成27年6月11日(木)~12日(金)に第68回日本酸化ストレス学会学術集会を開催させていただきます(<http://sfrrj68.umin.jp/>)。

多くの難病、例えば、リウマチ、肝炎、腸炎、発癌、老化等の要因として活性酸素との関連が数多く報告されています。神経疾患の多くは、酸素ストレス関連疾患であることもわかってきました。アルツハイマー、パーキンソン、筋萎縮性側索硬化症(amyotrophic lateral sclerosis; ALS)等では生体防御系の異常、または活性酸素の細胞内増加に由来する神経疾患であることがわかりつつあります。生体に活性酸素ストレスが加わると生体の最小単位である細胞に障害を引き起こし、これが原因である種の疾患は発症をきたします。酸化ストレス下における生体内反応、生体内代謝産物は複雑かつ多様であります。アポトーシスに加えて、オートファジー、マイトファジー、ネクロシスもミトコンドリアにより制御されると言われています。またミトコンドリア発生活性酸素が、細胞のシグナル伝達にも関連することがわかってきています。近年ではゲノミクス、トランスクリプトミクス、プロテオミクス、メタボロミクスなどといった網羅的解析が飛躍的に進歩し、様々な疾患の原因解明、治療法の確率に大きく貢献しています。これらの研究の益々の発展は今後のライフサイエンス研究の発展に繋がることを確信しております。

鹿児島ならではの有意義な大会になりますよう、事務局一同努めて参りますので、関係各位のご支援を切にお願い致しますと共に、多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。



役員推薦内規 被推薦者資格 (抜粋)

理事は、本学会の評議員で次の資格の(1)から(6)を具える者でなければならない。

- 1.原則として、本学会に継続して5年以上在籍、かつ会費を完納しているもの。
- 2.酸化ストレスに関する研究歴5年以上のもの。
- 3.最近5年間に、関連領域において、発表論文が、学会誌「Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition(JCBN)」最低1編を含む、5編以上有するもの。(共著者可)
- 4.最近3年間に日本酸化ストレス学会年次学術集会における発表が1回以上のもの。(共同演者も可)
- 5.国内外において、関連領域に関する卓抜した見識又は業績を有する者。また、年次学術集会が主宰出来る職位にあることが望ましい。
- 6.その他理事会が特に必要と認めたもの。

評議員は、本学会の正会員で次の資格の(1)から(5)を具える者でなければならない。

- 1.原則として、本学会に継続して3年以上在籍、かつ会費を完納しているもの。
- 2.酸化ストレスに関する研究歴3年以上のもの。
- 3.過去5年間に、関連領域において、発表論文が、学会誌「Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition(JCBN)」最低1編を含む、5編以上有するもの。(共著者可)
- 4.過去5年間に、日本酸化ストレス学会年次学術集会ならびにSFRR関連国際学会における発表が3回以上のもの。(但し、特別講演においては1回以上。シンポジウム/ワークショップにおいては2回以上とする。共同演者も可)
- 5.国内外において、関連領域に関する卓抜した見識又は業績を有する者。
- 6.その他理事会が特に必要と認めたもの。

～ 2014年度 各賞受賞者 喜びの声 ～

第67回学術集会(2014年9月 京都開催)において、選考委員会による厳正な審査を経て、理事会・評議員会の承認の下、下記受賞が決定いたしました。受賞者の皆様の今後の益々のご活躍を祈念いたします。



「2014年度 学会賞 を受賞して」
赤池 孝章 (東北大学医学系研究科 教授)

この度は、2014年度日本酸化ストレス学会・学会賞の受賞の栄に浴し、身に余る光栄に存じます。小澤俊彦理事長、内藤裕二副理事長、宮田直樹選考委員長をはじめ、関係各位のこれまでの永年におよぶご支援とご高誼に感謝申し上げます。特に、故吉村哲彦先生には、駆け出しの時代より、度々励ましのお言葉を賜りました。これまで私が、曲がりなりにも、学者・研究者として人生を歩んでこられたのは一重に吉村先生のご指導とご厚情の賜でございました。天国の吉村先生に心よりお礼申し上げます。私の研究グループは、これまで、酸化ストレス応答における、活性酸素や一酸化窒素(NO)によるレドックスシグナル経路に関する研究を推進してきました。近年、活性酸素が細胞内シグナル制御を司ることが分かっていますが、当初は、その分子メカニズムは不明でした。幸運なことに、私共は、2007年、酸化ストレスの場において、過剰に生成する活性酸素とNOによる核酸ヌクレオチドの新規化学修飾物質の同定と生理学的意義を世界にさきがけて報告しました。すなわち、活性酸素・NOの安定な二次シグナル分子として、新規環状ヌクレオチドであるグアノシン3',5'-環状1リン酸(cGMP)のニトロ化誘導体:8-ニトロ-cGMPを発見しました(Nature Chem. Biol., 2007)。爾来、このユニークなシグナル分子の生成機構、下流シグナル経路の探索、代謝・分解の制御メカニズムの解明に取り組んできました(J. Immunol., 2009; JBC, 2010; Plant Cell, 2013; Biochem. J., 2014; Nature Chem. Biol., 2012; Biochem. J., 2012; Antioxid. Redox Signal., 2014; PNAS, 2012; Mol. Cell, 2013)。加えて、8-ニトロ-cGMPおよび活性酸素・親電子シグナルの制御因子として、システインパルシルフィドをはじめとする活性イオウ分子種によるタンパク質のポリサルファー化という全く新規の翻訳修飾を介するレドックスシグナル制御機構を発見しました(PNAS, 2014; FRBM, 2014)。これらの研究成果が、今後、レドックスバイオロジーの基盤的研究のみならず、酸化ストレスの関わる、感染・炎症、がん、動脈硬化症・生活習慣病などの国民病、アルツハイマー病などの神経変性疾患や神経難病の診断、予防・治療戦略の確立に貢献できればと思っています。また、私共が、2008年～2012年まで実施しました文部科学省新学術領域研究「活性酸素シグナル」は、本年度より、新たに「酸素生物学」として模様替えをして再スタートを図りました。このような学際的研究と若手人材育成を目指した大型研究プロジェクトの運用を通じて、日本酸化ストレス学会が益々発展することを期待しています。これまで、私の活性酸素・酸化ストレス研究にご支援を賜りました、日本酸化ストレス学会の諸先輩、学兄の皆様に感謝申し上げますとともに、会員の皆様のご健勝とご活躍をお祈りいたします。



「2014年 学術賞 を受賞して」
中川 秀彦 (名古屋市立大学 教授)

このたび伝統ある日本酸化ストレス学会において学術賞を受賞させていただき、大変光栄に感じております。前任地である放射線医学総合研究所で一酸化窒素(NO)のESRスペクトラップ研究や放射線防護剤研究をするよう、当時の小澤部長から指示頂きこの研究分野に参加させていただくこととなり、今日まで数多くの先生方のご指導を頂いて参りました。その後、名古屋市立大学への異動し研究テーマも少しずつ変化しましたが、NOをはじめとする酸化ストレスの化学的研究を進めてきました。これまでの研究成果が認めていただけたということで大変嬉しい気持ちです。NOやそれに関連する小分子メディエーターは、蛋白性の因子や、モノアミン類、カルシウム等の無機イオン、いずれとも異なる物理化学的性質、化学的性質を持ち、また独特な生理作用をもつ、大変興味深い化学種であるといえます。これらの化学種の作用を実験的に自由に操ることを目指して、光を利用した制御可能なDNA-化合物の開発を進めてきました。これまでにいくつかの有用化合物の創出に成功してきたと自負しています。これからは、開発化合物の利用も含めて、真に有益な化合物を提供できるよう、さらに研究を進展させて行きたいと考えています。今回の受賞は、小澤先生、伊古田先生、宮田先生をはじめとする先生方のご指導、また鈴木孝禎先生などの優れた同僚、実際に研究を推進してくれた家田先生、学生の力に支えられたものと感じております。深く感謝いたします。



加藤 陽二 (兵庫県立大学環境人間学部 教授)

この度は日本酸化ストレス学会・学術賞を頂きまして、お礼申し上げます。私の手元の記録が正しければ、平成7年から本学会の前身である日本過酸化脂質・フリーラジカル学会の会員になり、平成18年からは評議員に選出いただきました。「皆勤賞」を目指すべく、できる限り学会年次大会にエントリーしてきましたが、皆勤賞ではなく、学術賞を頂くことができました！

これまでたんぱく質プロリンやチロシン残基の酸化修飾を中心に研究を進め、脂質酸化に伴うたんぱく質修飾では新規アミド型リジン付加体も見出すことが出来ました。2014年の1月にはSpringerより脂質酸化修飾の本を編集・出版し、本学会でもご活躍されている数名の先生にもご助力頂きました。最近ではセロトニンの酸化も探求しています。食品機能性についても研究を進め、酸化ストレス研究とも少し融合して二本柱としてバランスをとりつつ、皆様の暖かい励ましのおかげでここまで来ることが出来ました。研究者としては折り返し地点を過ぎたあたりで、残りの研究人生において、重み付け、すなわち、どの分野で、どのような内容を目指すべきか悩んでいます。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

「2014年 学術奨励賞 を受賞して」

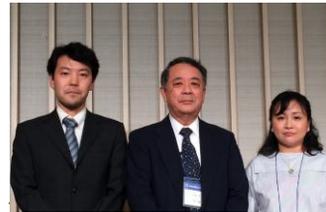
高宮 里奈 (札幌医科大学医学部医学講座)

この度は、日本酸化ストレス学会学術奨励賞をいただき、誠にありがとうございました。理事長 小澤俊彦先生、審査をして頂いた先生方、そして酸化ストレス学会の諸先生方に謹んで感謝申し上げます。また、これまでご指導を受け賜りました理化学研究所グループディレクター 谷口直之先生、慶應義塾大学教授 末松誠先生、熊本大学教授 大坪和明先生、ならびに共同研究者の方々にこの場をお借りし御礼申し上げます。

今回、「低酸素誘導がん特異的糖鎖抗原によるがん悪性化機構の解明」について発表させて頂きました。糖鎖から始まった研究でしたが、ようやくレドックス、そして、Gas Biologyにつながる糸口が見えてきたところです。今後も、この受賞を励みに、新たながん治療戦略の提案につながる基盤研究を行なっていきたいと考えております。今後ともご指導のほど、宜しくお願い申し上げます。

石井 恭正 (東海大学医学部分子生命科学)

この度、2014年度学術奨励賞という栄誉ある賞をいただき、大変光栄に存じております。理事長の小澤俊彦先生、第67回学術集会会長の野口範子先生、賞選考委員をお務め頂きました諸先生方、さらに日頃ご指導・ご鞭撻を頂戴しております学会運営の諸先生方に心より御礼申し上げます。小生は、2001年度よりミトコンドリアから生じる酸化ストレスと老化の関連について研究を続けてまいりました。これまで、その研究成果を老化研究やミトコンドリア研究の分野にて評価頂いてまいりましたが、異なる学会での評価を切り開く思いで2011年度から日本酸化ストレス学会に参加させて頂くようになりました。今後、本学会の諸先生方からより多くのご指導・ご鞭撻を受けたく存じております、宜しくお願い申し上げます。末筆ながら、本受賞は、永きに亘り親身なご指導・ご支援を賜っております石井直明教授、また安田佳代博士をはじめ研究室の先人、学生方々のご尽力の賜物であり、この場をお借り致しまして皆様に厚く御礼申し上げます。



(写真左から 石井/小澤理事長/高宮)



「八木記念学術奨励賞 を受賞して」

山下 享子 (名古屋大学大学院医学系研究科)



この度は、八木記念学術奨励賞を頂き、大変光栄に感じております。日本酸化ストレス学会理事長 小澤俊彦先生、前理事長 吉川敏一先生、第67回日本酸化ストレス学会学術集会会長 野口範子先生、並びに関係の諸先生方に御礼を申し上げます。豊國伸哉教授の指導の元、発癌に酸化ストレスが重要な役割を果たしている中皮腫の発生機構について研究して参りましたが、本受賞論文研究では、中皮細胞に取り込まれたクロソドライト(アスベスト)の量を定量的に評価する方法として、セルブロックとフローサイトメトリーが有用であることを報告いたしました。この受賞を励みに今後さらに努力していきたいと思っておりますので、御指導のほどよろしくお願ひ申し上げます。

◇◇◇ 各賞公募について ◇◇◇

2015年は関連国際会議が下記の通り開催されます。各々の学会にて、若手奨励の為の賞を授与予定ですので、若手研究者で会員の方は是非、演題応募(口頭・ポスター問わず)の上、是非ご応募ご予約下さい。

7th Biennial Meeting of SFRR Asia

Date: Nov. 29th(Sun.) to Dec.2nd.(Wed.), 2015
 Venue: Chiang Mai, Thailand
 President: Dr. Maitree Suttajit (SFRR Thailand)



SFRR Asia 加盟 Region (中国・インド・日本・韓国・マレーシア・タイ・台湾) の中で持ち回り開催を行っている中で、初めてのタイでの開催となります。*SFRR Asiaならびに日本酸化ストレス学会より各賞を授与予定。

- * 発表は会期最後の閉会式の際に予定されております。
- * 賞状ならびに副賞の授与を行います。
- 過去実績: SFRR Asia YIA アジア参加者より6-8名程度。日本酸化ストレス学会 5名程度

7th Joint Meeting of SFRR Australasia and Japan (SFRR A+J)

Date: December 7th(Mon.) to 10th(Thu.)
 Venue: University of Otago Christchurch, Christchurch, New Zealand
 President: Tony Kettle PhD FRSNZ
 詳細は: <http://www.sfra.org>



 本会では、今後も、これまでの功績を称え、また、今後の活躍を期待し、各種賞の授与を行う予定です。自薦他薦を問いませんので、是非多くのご応募・ご推薦お待ちしております。

申込方法は、学会HPをご覧ください。
<http://sfrj.umin.jp>



**SFRR A+J 2015における
 シンポジウムテーマ・演者の推薦
 【公募のお知らせ】**

自薦・他薦を問わず、広く会員より募ります。事務局宛に、シンポテーマもしくは、演者の場合は、氏名・所属・連絡先(e-mail)・仮演題名をお知らせ下さい。なお、決定は、SFRR A+J事務局に一任となります。



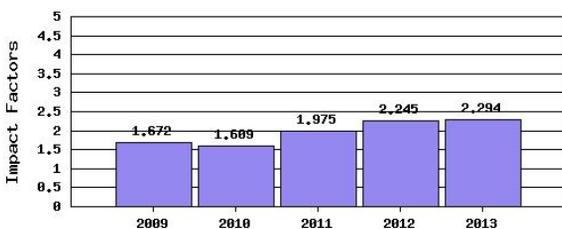
**JCBN(学会オフィシャルジャーナル)情報
 (Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition)**

オンラインによる投稿随時受付中!
 Online SubmissionのURL

<http://www.editorialmanager.com/jcbn/>

現在の Impact Factor : 2,294 (2013)

JOURNAL OF CLINICAL BIOCHEMISTRY AND NUTRITION



◇◇◇ 学会レポート ◇◇◇

フリーラジカルサマースクール in 館山2014に参加して

中西郁夫(放射線医学総合研究所 重粒子医科学センター)

フリーラジカルサマースクール in 館山が、今年も筑波大の松井裕史校長の下、8月7日から9日まで筑波大学館山研修所にて開催されました。本スクールは今年で4年目を迎え、日本酸化ストレス学会の夏の風物詩として定着しつつあります。私は4年連続で今回も出席する機会を得ましたので報告いたします。まずは今回の講師陣をご紹介します。

1日目:中西郁夫(放医研)、李昌一先生(神奈川歯科大)、安井博宣先生(北大)

2日目:松井裕史先生(筑波大)、富田勉社長(タイムラプスビジョン株式会社)、佐藤和恵先生(昭和大)、三輪佳宏先生(筑波大)、馬嶋秀行先生(鹿児島大)

3日目:谷中昭典先生(筑波大)、平山暁先生(筑波技術大)、伊藤博康先生(浜松トニクス株式会社)

酸化ストレス学の基礎から臨床、さらには納得を生むプレゼン法(三輪先生)に至るまで、今年もバラエティー豊かで強力なラインナップです。

初日は昼過ぎから講義がスタートし、終了後、ベランダで集合写真を撮影しました。ここで富士山が姿を見せてくれたのは、この4年間で今回が初です。夕食(+エタノール)をいただきながらの自己紹介タイムには、アットホームな雰囲気も手伝って、普段では知り得ない個人情報も次々と暴露されました。2次会は、いつものアノ場所で...店主さんは九十路を迎えられたそうですが、本スクールのためにも、ますますお元気でください。

2日目に富田社長がご紹介された胃粘膜を超えて胃酸が出てくる動画には生命の匠に驚嘆するとともに、暴飲暴食を控えて(やめるのではなく、あくまでも控える)胃をもっといたわらねばと反省させられました。今年にはランチのカレーがなくて残念でしたが参加者全員で駅前の回転寿司に繰り出し、さらに親睦を深めることができました。長めの昼休みに海でボディーボードにいそまっていた先生方や学生さんたちもいらっやいました。夕方には若手によるポスター発表が行われ、厳正な審査の結果、今井耕平さん(昭和大)、伊藤紘さん(筑波大)、野村昌吾さん(東京理科大)、中村美月さん(千葉大)、坂本慶充さん(東邦大)の5名が優秀演題賞を受賞しました。間近で繰り上げられる館山湾花火大会を目で、耳で、鼻で(硝煙の香り)、体で(衝撃波)感じることでできる特等席(ベランダ)で鑑賞しながらの懇親会は、毎年のことながら圧巻でした。3日目午前中の講義をもって名残を惜しみながらスクールは終了しました。

今回、私はトップバッターだったので、自分の出番が終わった後は生徒に徹して大いに勉強させていただきましたが、毎年のことながら期待を裏切らないどころか、期待をはるかに上回る充実した内容のスクールでした。最後に、校長の松井先生ならびに伊藤紘さんをはじめとする事務局の方々の素晴らしいホスピタリティーに心から感謝いたします。



☀️ JCBN随時オンライン投稿を受付中 ☀️

毎年会員の投稿の若手研究者(男性 40歳以下、女性 45歳以下)の中より、前年度発表の最優秀論文に対して、八木記念学術奨励賞を授与しております。会員各位の投稿をお待ちしております。また、新役員(理事・評議員)申請には、JCBNへの投稿実績が必要ですので、是非お早めにご投稿頂けますようにご案内申し上げます。

《2013年度実績》

・投稿論文数
 論文種別: 企画総説 5、総説(ミニレビュー含) 2、原著 105、レター 0 合計 112(海外:59 国内:53)

・採択率 58.04 不採択率 38.39%

※特別審査・掲載なども受け付けております。(別途有料・編集事務局宛にご相談下さい。)

Editorial Secretariat for JCBN <jcbn@koto.kpu-m.ac.jp>

◇◇◇ 関連学会 開催案内 ◇◇◇

以下の関連学会情報は予定を多く含みます。変更などが生じる可能性もありますので、詳細については、各主催団体にお問い合わせ下さい。また、学会HPにでも随時情報を掲載予定です。

日本酸化ストレス学会 東海支部 第3回学術大会
 日時：2015(平成27)年2月7日(土)13:30-17:30
 会場：名城大学八事キャンパス・新1号館4階
 (402教室) (名古屋市中天白区八事山150)
 実行委員長：小嶋伸夫(名城大学薬学部)



URL: http://www.yaku.meijo-u.ac.jp/Research/Laboratory/hygie_chem/sfrjtokai3.html

Society for Free Radical Biology and Medicine 22nd Annual Meeting

会期：November 18-22, 2015
 会場：Westin Waterfront Hotel, Boston, Massachusetts USA



Further information:
www.sfrbm.org/sections/annual-meeting/information

第32回臨床フリーラジカル会議

会期：2016年1月 金曜日午後～土曜日午前(予定)
 会場：烟河(けぶりかわ)会議室 (京都府亀岡市)
 当番世話人：吉川 敏一(京都府立医科大学学長)
 問い合わせ先：e-mail: handao@koto.kpu-m.ac.jp
 ※一般の講演に加え、毎回好評であります若手によるセッションを含めプログラムを構成し、最新の知識を伝えると共に、参加者が同じ場所に宿して、昼夜を問わず交流を深める会となっております。是非ご参加下さい。



Society for Free Radical Biology and Medicine 23rd Annual Meeting

会期：November 16-20, 2016
 会場：Hyatt Regency Embarcadero Hotel California USA



Further information:
www.sfrbm.org/sections/annual-meeting/information

◇ SFRR International & Asia News ◇

SFRR Asia

【役員】
 現在、日本からは、下記4名の役員を輩出している。
 Secretary-General: Yuji Naito (Japan)
 Treasurer: Hideyuki J. Majima (Japan)
 Representative: Shinya Toyokuni (Japan)
 Noriko Noguchi (Japan)

更に、この度2014年1月オンライン投票による選挙にて、President-electに豊國伸哉先生が選出されました(任期は2014年-2015年)。2016年よりPresident就任予定。

【オフィシャルジャーナル】 “Free Radical Research”

http://sfrj.umin.jp/asia/en_Official_Journal.htm
 会員特別価格での定期購読の受付を行っています。

SFRR International

【役員】
 President-elect 選挙行われ、会員による事前投票結果を受けて、先般11月に開催されましたSFRRI国際役員会にて討議の結果、SFRR Asia同様に、本会より 豊國伸哉先生が選出されました。(任期は2015年-2016年)。2017年よりPresident就任予定。国際のPresidentは、二木名誉会員・吉川名誉理事長に続き、3人目となります。

おめでとうございます。豊國先生におかれましては、International・日本・Asiaと全てにおいて、President(理事長)の要職に就任(もしくは就任予定)となりますが、個人の力はもとより日本酸化ストレス学会会員皆様のサポートがその遂行には必須となりますので、会を挙げてのサポートをお願い致します。

SFRR Japan(日本酸化ストレス学会)は、SFRR International並びにSFRR Asiaの下部組織です。日本酸化ストレス学会の会員の方は自動的に両国際組織のメンバーとなっております。

シリーズ:酸化ストレスのつぶやき 第7回



福井 浩二
 芝浦工業大学システム理工学部
 生命科学科生理化学研究室

私の所属する生命科学科では1年生が履修する講義の一つに「生命科学概論」という講義がある。この講義は学科の専任教員が1コマずつ持ち回りで担当し、自らの専門分野について大学に入学したばかりの学生にわかりやすく講義する、といった内容になっている。当然、私も毎年1コマを担当し、「生体の酸化障害説」について解説している。講義終了後に学生には感想文を書かせるのだが、これがまだ専門分野を全く勉強していない1年生であるので非常に面白い。大半は、「生体も錆びる・酸化するというのを初めて知りました」とか、「様々な病気の発症や病態の亢進に関与しているかもしれないと聞いて興味がありました」などであるが、中には「活性酸素という言葉は聞いたことはあったが、その意味はよく知らなかった。「活性化した酸素」で体に良いものだと思っていたとか、「活性酸素が生体を酸化させるのなら、これからはあまり動かないでなるべく酸素消費を抑えたい」とか、「高地に住んでいる人は酸素が薄い環境だから長生きするんですか?」などといった多少ズッコケた感想もある。まあ素人目線での素直な感想であろうと個人的には理解している。これ以外にも、「スポーツ選手は酸素カプセルで疲れを取ったりしているじゃないですか!」とか、「酸素バーとかはどうかですか?」といった鋭いツッコミもある。ふむふむ、新入生なりにいろいろ考えているんだと感想文を読んで毎年思う。これら感想文が多少本質と脱線する原因は、考えるに「酸化ストレス」という言葉が聞きなれないからではないだろうかと思う。「酸化したストレス?」、なんじゃそりゃ、という感じに学生ではなっているであろう。学生の感想文にも毎年「酸素ストレス」と書いて提出する学生が何人もいる位である。加えて活性酸素、フリーラジカルまで出てこれば、多分ショートする学生が多くいることだろう。私も毎年、この講義を行い感想文を読むたびに、学生に話すときには間違えずにきちんと正しく言葉を使い分けなくてはと思っています。

◇◇◇ 事務局より ◇◇◇

【会費納入ならびに連絡変更のお知らせのお願い】

事務局では、毎年年明け1月中を目処に、年会費の納入をお願いしております。複数年に亘って未納の場合は合わせてご請求させていただきます。是非、遅延のないようにご送金頂きますようお願い致します。また、ご所属や連絡先の変更があった場合は、速やかに事務局までご連絡をお願い致します。毎年、迷子で戻ってくる郵便物を前に事務局は途方に暮れております。転居先不明などで、追跡不能になった場合は、やむを得ず退会処分となる可能性もあります。是非是非、事務局へ近況のお知らせも兼ねて、ご連絡をお願い致します。また、学生の方で、卒業後行方不明の方も多発しております。同様に退官などで現役を引退される場合も、お知らせをお願いします。継続が難しい場合は、退会のご連絡をお願い致します。(書面による退会届の提出)



退会届けが提出されないで、郵便物の戻りもない場合は、会員継続とみなし、会費の請求も継続されます。「辞めたつもり」が一番事務局泣かせですので、宜しくお願い致します。



♪♪♪ SFRR Newsletter 2015年1月号 発行:2015年1月1日

SFRR Japan Newsletterに掲載を希望される方、あるいは、ご意見などありましたら、下記事務局宛ご連絡下さい。

SFRR Japan事務局 (総務委員会:内藤裕二・半田 修)
 〒602-8566 京都市上京区河原町通広小路上ル梶井町465
 京都府立医科大学大学院医学研究科消化器内科学内
 TEL: 075-254-8520 FAX: 075-254-8521
 E-mail: sfrj@koto.kpu-m.ac.jp
 HP: <http://sfrj.umin.jp/index.htm>